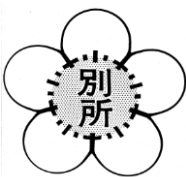


別所小の窓



さいたま市立大宮別所小学校
令和6年度10月号 児童数765名
TEL 048-667-3633 FAX 048-667-8700



【実もたわわな本校梨園】

心の目

校長 神田 朋恵

長く厳しい残暑がやっと終わり、秋の風が心地よく感じられる季節となりました。今月は校外学習や修学旅行など、各学年での行事が多く行われます。そして11月1日50周年記念式典に向け、10月18日には祝☆50周年記念シェフ給食、30日には50周年記念イベント☆サイエンスショーがあります。子どもたちの喜ぶ顔が今から目に浮かびます。関係の皆様、どうぞよろしく願いいたします。

さて、読書の秋です。学校でも今月は読書月間となっています。皆さんの心にはどんな本が浮かびますか。

私の大好きな本の一冊に、灰谷健次郎遺作『天の瞳』という作品があります。最初は読売新聞の新聞小説から始まったのですが、当時受け持っていた6年生に毎日読み聞かせをしていたのを思い出します。主人公倫太郎やその友達が人との関わりの中で色々ぶつかりながら学んでいく物語です。この本の中で、じっちゃん（倫太郎の祖父）の言葉が心に刺さります。

「隣どうしにあるのに、絶対見えないものはなんや。」

「心の目は、人の心を見るのが、一番の仕事やな。あの人は今、顔では笑っているけれど、本当はつらい悲しいことがあって、泣きたいような気持ちでいるなど見破るのは心の目の仕事じゃな。怒っているようなふりをしているが、本当はうれしくて仕方がないというのを見破るのも心の目や。心の目のひらいていない人は、そんな本当の人の心が読めんから、人からも相手にされんし友だちもなかなかできん。」

皆さんにとって、見えないけれど大切なものは何ですか？

心の目は、開けていますか。

教室には、実に様々な子がいます。教職員は、全身全霊で子どもたちの気持ちに寄り添い、子どもたちの心が安心できるような居場所づくりに取り組んでいます。でも、もしかしたら、保護者の方の思いと少し違っていることがあるかもしれません。その小さな疑問は大きくなるまで心の中にしまっておくことなく、どうぞお伝えください。希望面談が始まります。お子さんを中心に据え、お子さんを思って対応している、その気持ちは保護者も教職員も同じです。

保護者、地域の皆様、いつも温かい御支援御協力をいただきまして、本当にありがとうございます。皆様の支えがあってこそ、子どもたちは安心して学び、成長することができます。今月も子どもを慈しみ育てるパートナーとして、どうぞよろしく願いいたします。

